



座談会企画

エキスパートナースの考える 軟性凸面装具の使い方とは？

—凸面装具の現状や今後の課題の整理—



石井 光子 先生

国立国際医療研究センター病院
皮膚・排泄ケア認定看護師

江川 安紀子 先生

東京慈恵会医科大学附属病院
皮膚・排泄ケア認定看護師

山本 千春

(ファシリテーター)
株式会社ホリスター
皮膚・排泄ケア認定看護師

はじめに

2014年8月 株式会社ホリスター ダンサック・ブランドより日本で初めて軟性凸面装具が発売されたことを皮切りに、現在まで各ストーマ装具メーカーから様々な軟性凸面装具が販売されています。既に装具選択の主流となっている施設も多いのではないのでしょうか。

今回、急性期病院で実際に軟性凸面装具を使用している皮膚・排泄ケア認定看護師のおふたりをお招きし、軟性凸面装具のメリット・デメリット、装具選択の現状や今後の課題についてご意見を伺いました。

1. 術後の装具選択は変わった？

山本 現在、軟性凸面型面板（以下、軟性凸面）が各社から発売されていますが、現在の病棟での装具選択状況はいかがでしょう？

江川 当院では**軟性凸面が主流**ですね。逆に、病棟看護師は硬い凸面の使い方を詳しく知らないかもしれません。コロストミーは、手術室では平面を貼付しますが、その後は状況に応じて軟性凸面に変更することが多いです。イレオストミーに関しては術直後から軟性凸面を使用していますね。

石井 当院は、軟性凸面だけでなく硬性凸面も使う機会があります。術後は江川さんの施設と同様の装具を使用し、その後はアクセサリを追加するなど、フローチャートに沿って選択していますが、**退院時には軟性凸面を選択することが多い**ですね。

江川 以前と比較して、平面装具で退院する人は少なくなりましたね。

2. 軟性凸面が適した患者像とは？

山本 では、具体的にどのような患者様に軟性凸面が適していると思いますか？

石井 基本的にお腹は動くところです。しわやくぼみの発生が予測できる方であれば、あらかじめ軟性凸面を使えばよいと思います（寝たきりの方や毎日交換したいという患者様を除いて）。

一般的な週2回の交換で、「無駄なく、漏れない装具」と考えると軟性凸面を使用することは一つの選択肢だと思います。

江川 同じように考えています。以前は**ストーマの高さによって【平面】か【硬性凸面】を選択することが主流でしたが現在は、腹壁の状況をアセスメントして【平面】【軟性凸面】【硬性凸面】を選択することが広まっています**。腹腔鏡下手術やロボット支援手術が増え、術後に腹壁がゆがむ、ひきつるなど、開腹手術とは異なる腹壁の変化が起きることも軟性凸面が選択される一つの理由になっています。その際、以前なら用手成形皮膚保護剤の併用が必要だった腹壁も軟性凸面1つで解決するようになってきました。これはシンプルケアに繋がるので、患者様に喜ばれていると思います。

また、ストーマサイトマーキングを実施する時点で、腹壁の特徴から使用できる装具の候補がわかることが多いので、ある程度予測を付けて装具を準備しています。

3. 軟性凸面と硬性凸面の選択はどうしてる？凸面の深さだけでは選ばない？

江川 硬性凸面しかない時代は、凸面の圧で皺を伸ばし平面を確保することが多く、装具は凸面の深さを重要視していました。

石井 軟性凸面の使用経験が増えてくると、**近接部の押さえが硬性凸面とは違うことに気が付きます**。軟性凸面は硬性凸面と同じような押さえる力を期待して、使うものではないと考えています。漏らさないためには深さだけで選択するのは不十分ではないかと考えています。軟性凸面は、硬性凸面とは別物と考え、追従性や柔軟性も考えながら装具選択をしています。

山本 2021年にJWOCN*において、凸面装具を凸面の深さだけで選択するのではなく、**5つの特性（深さ、柔軟性、圧縮性、張力の位置、傾斜）で製品全体を評価して使用するガイドライン**が発表されました。ここでは同じ深さの凸面でも腹壁によっては追従しない場合があり、この5つの特性を用いて製品全体を評価しながら装具を選択することも一つの選択肢として示されています。

*Journal of Wound, Ostomy, and Continence Nursingの略

4. 凸面装具の位置づけは？

山本 術直後から凸面装具（軟性・硬性を含む）を使用することは避けるべきでしょうか？

江川 「術直後は、ストーマ近接部に粘膜皮膚接合部離開の発生を避けるために、凸面装具は避ける」という教育を受けてきましたが、術直後からの凸面装具の使用を懸念するのは、単孔式のコロストミーにおけるストーマ粘膜皮膚離開だと認識しています。腸管の血流を考えるとイレオストミーやループストーマでは起こりにくいのではないかと思います。

石井 中には腹壁が硬い場合や、術後の腹壁の緊満によっては圧迫痕を認めることもありますよね。私も、凸面装具は粘膜皮膚接合部離開を発生する懸念があると教育を受けているため、アクセサリ追加など色々ケアしてダメなら使用するというイメージがあります。もちろん間違った選択をすると、ストーマの成熟の阻害や、粘膜皮膚接合部離開を生むと理解していますが、凸面装具だから発生したというエビデンスはないそうですね。

山本 その通りです。2022年にJWOCNにおいて、術直後の凸面装具（軟性・硬性を含む）使用についてのコンセンサスが発表されました。ここでは、【凸面装具を使用することで粘膜皮膚接合部離開が起こる可能性との関連を疑問視する】という一文があり、凸面装具と粘膜皮膚接合部離開の直接的な因果関係が否定されています。また、同時に発表されたアメリカの調査結果では、【術後の30日間に凸面装具を使用する】人の割合は95%、【術後の最初の8日間にストーマ周囲の皮膚への便漏れを防ぐためにも最も適切な装具を選択する必要がある】という認識を持っている人は94%で、【術直後の期間で凸面装具を使用している人】の割合は71%に上っています。

石井 術後30日間では日本も同様の結果が得られると思いますが、術直後の期間で凸面装具を選択している割合はやはり日本はまだ低いですね。

参考：Stoia-Davis, Janet, et al.: Survey Results on Use of a Convex Pouching System in the Postoperative Period Journal of Wound, Ostomy and Continence Nursing: vol.49,247-250,2022

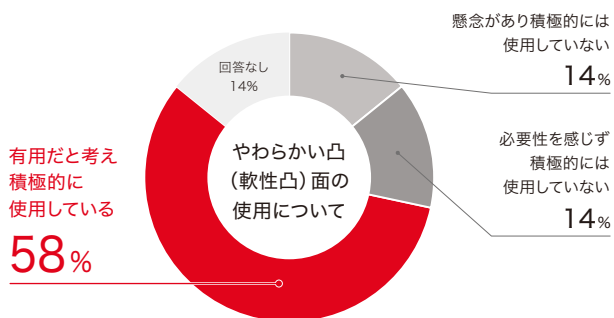
5. 軟性凸面選択への認識と実臨床とのギャップ

山本 こちらは2022年に実施した弊社のコロストミーに対する術後早期における装具選択の全国調査結果です。地域性による偏りもありますが1つの参考としてご覧ください。

1 コロストミー術後早期の 「やわらかい凸（軟性凸）面の使用」に 対するお考えをお聞かせください。

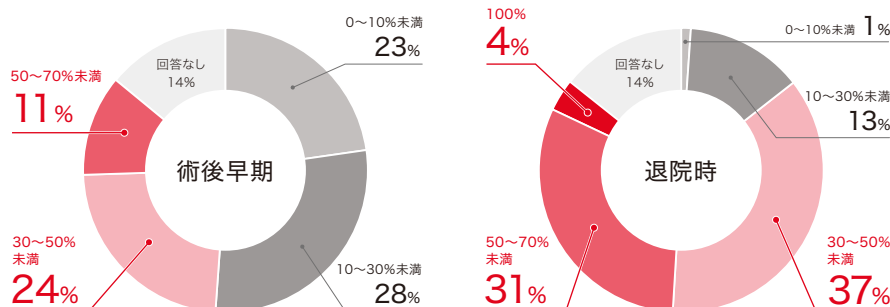
n=106

*術後早期=最初の数回（1-3回程度）の
装具交換の時期



2 コロストミー術後早期と 退院時における実際の 「やわらかい凸（軟性凸）面の使用」に関する割合

n=106



山本 軟性凸面はとても汎用性が高いな、使えるなという認識はありつつも、半数以上は術直後に選択していません。一方で、退院時装具として軟性凸面が選択されている実態があります。看護師の認識と実臨床に差がありますがそれはなぜでしょうか？

石井 まだ軟性凸面に関する教育方法や装具選択方法が確立していないからではないでしょうか？同じ軟性凸面でも製品によって、また単品系か二品系でも凸面や面板全体の硬さが異なります。装具を深さでは選択しないのはわかりますが、基準がないのでどう伝えるべきか悩むときがあります。

江川 あくまで装具の情報はメーカーからの案内であって、そこに明確な基準があるわけではありません。同じ軟性凸面という分類であってもメーカーによって特徴が異なりますし、同じ皮膚保護剤でも、単品系、二品系、またサイズによっても柔軟性や支持力に違いがあると感じます。造設件数の多い病院であれば全てを比較して経験で使い分けることも可能ですが、そうでなければ使い分けの基準を得るのは難しいと思います。

石井 結局、エビデンスがないのでトライ&エラーでやっていくしかない部分が大きいです。そこで施設としての造設数が少ないと選択基準の確立は難しいですね。WOCの領域では特にストーマ領域のエビデンスが少ないと思います。軟性凸面であっても硬めのこういう腹壁の場合、この製品でこのぐらい圧がかかりますというような基準やエビデンスがあると参考にしやすいと思います。ただ個体要因が大きく、実際には課題も多いと思います。

まとめ

今回、皮膚・排泄ケア認定看護師であるお二人に、術直後からの軟性凸面の使用状況についてお話を伺いました。

患者様の腹壁や個々の状況を考慮すると、軟性凸面装具は汎用性が高く、術直後の装具選択における貴重な選択肢の1つであることがわかりました。一方で全国調査の結果からは、看護師が持つ軟性凸面の有用性の認識と実際の使用状況にギャップがあることもわかりました。また、病院によっても運用にギャップがあるようでした。標準化された選択基準、教育方法、明確なガイドラインが今のところ存在しないことが一因となっています。

株式会社ホリスターでは、引き続きストーマケアにかかわる医療従事者の皆様のご協力を仰ぎながら、よりよいストーマケアの一助となるような情報提供を継続できればと考えております。

※掲載内容は発行時点における情報です。

※この事例は特定の施設における取り組みを紹介するもので、すべての施設において同様の成果が得られることを示したものではありません。

発行元 **株式会社 ホリスター**

〒140-0002 東京都品川区東品川2-2-8 スフィアタワー天王洲21階



株式会社 ホリスター

フリーダイヤル 0120-032-950

URL : www.hollister.co.jp

ダンサック

フリーダイヤル 0120-977-138

URL : www.dansac.jp